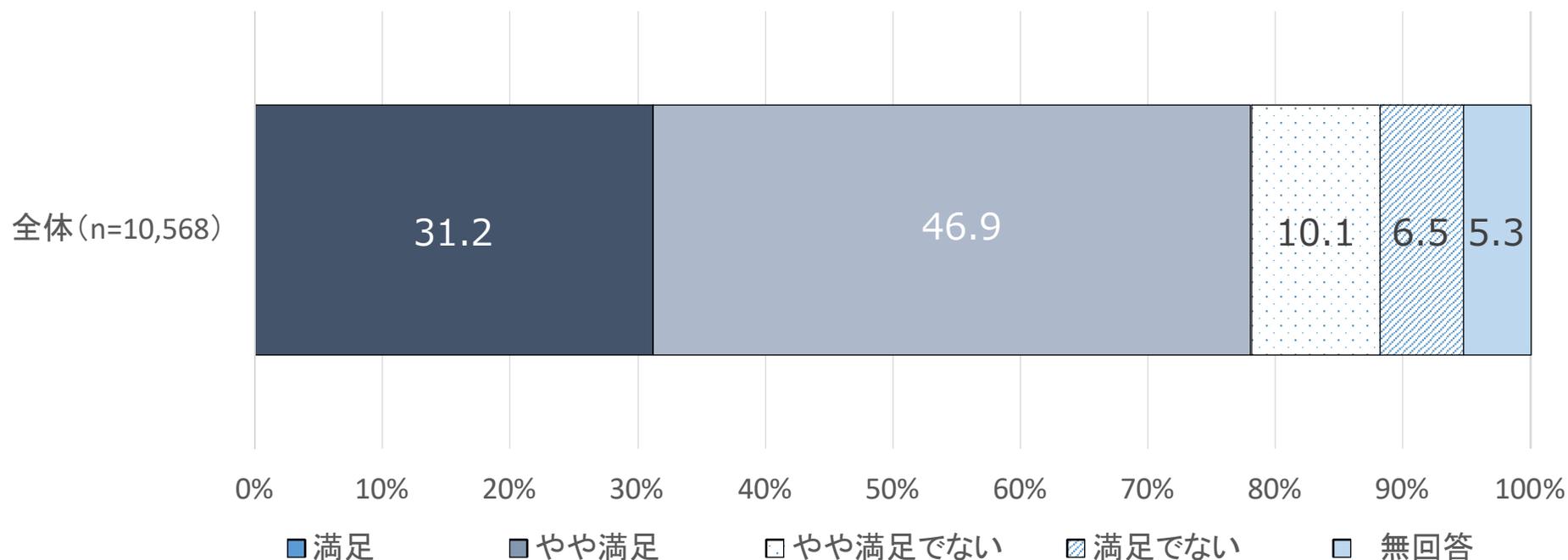


令和元年度
大阪市高齢者実態調査結果
について

【アウトカム指標】

A 住民 生活満足度 (本人調査)

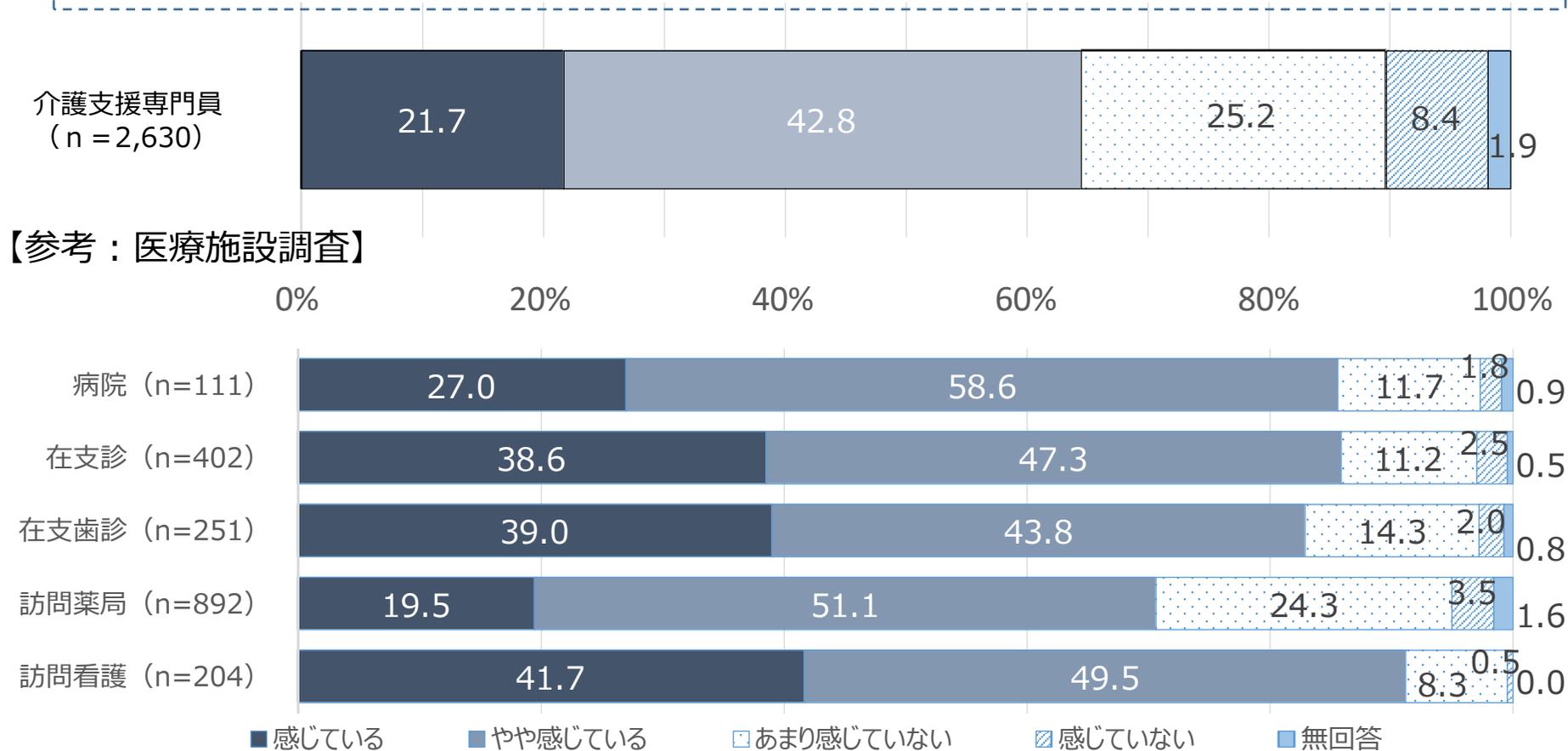
現在の生活の満足度は次のどれにあてはまりますか。(○はひとつ)



- ・現在の生活に満足している人は、「満足」と「やや満足」をあわせ、約8割となっている。
- ・ひとり暮らし世帯では、同様の割合は約7割であり、高齢者世帯全体に比べ、満足していると答えた割合が低い。

B 従事者満足度（介護支援専門員調査）

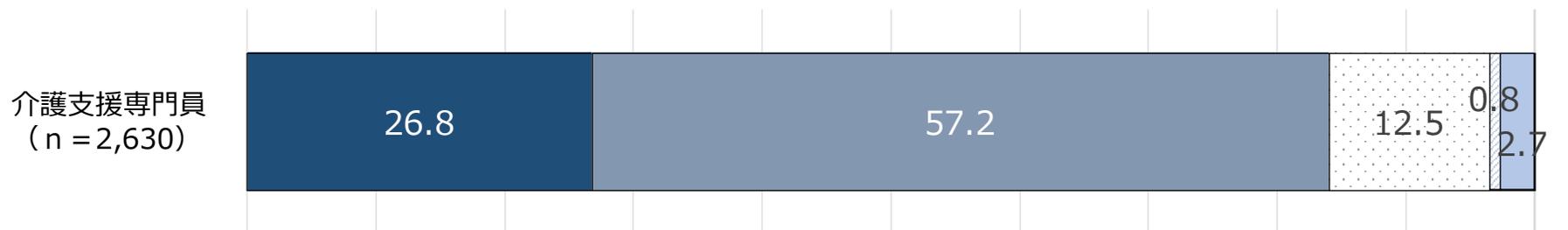
あなたは、ご自身の仕事に満足度を感じていますか。（○はひとつ）



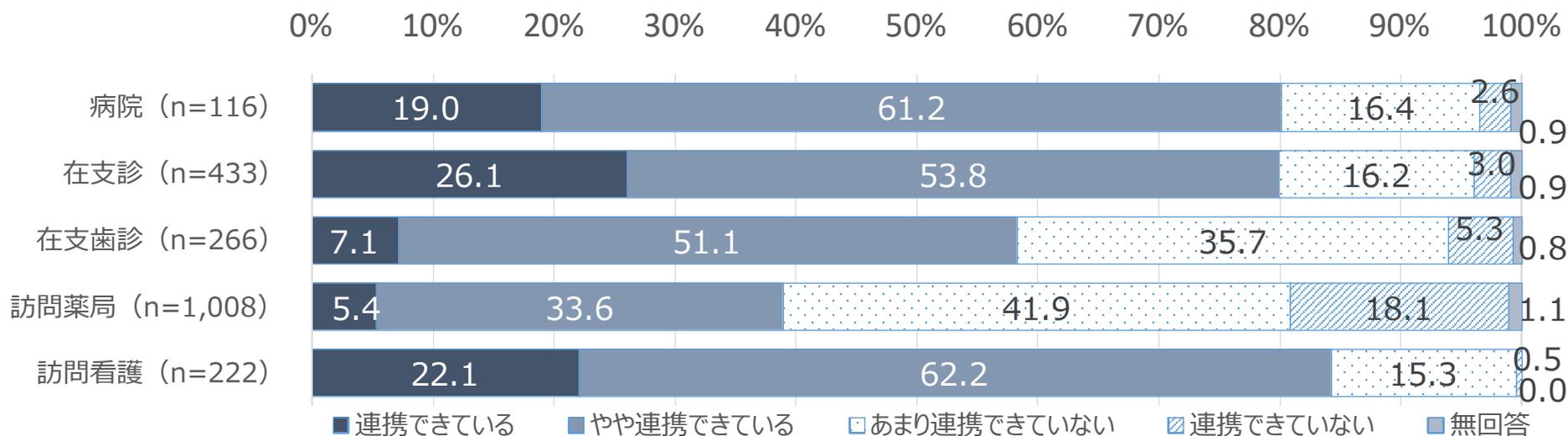
- ・仕事に満足度を感じている介護支援専門員は、「満足している」と「やや満足している」を合わせ、6割強となっている。
- ・介護支援専門員で仕事に満足度を感じていると答えた割合は、医療従事者の結果より低い。 3

B 連携度（介護支援専門員調査）

貴事業所は、地域の他職種・他機関と、全般的に、どのくらい連携（連絡、相談、調整、意見交換、情報、共有等）できていると思いますか。（○はひとつ）



【参考：医療施設調査】



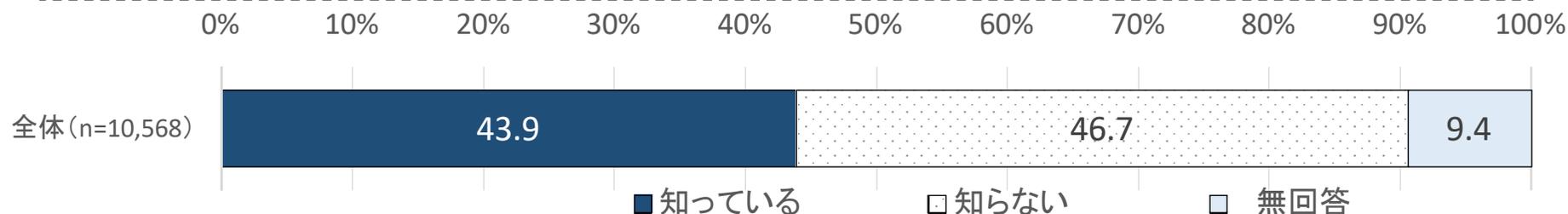
- ・他職種・他機関と連携できていると思う介護支援専門員は、「連携できている」と「やや連携できている」を合わせ、85%程度となっている。
- ・介護支援専門員で連携できていると思うと答えた割合は、訪問看護と同程度で高くなっている。4

【プロセス指標】

C 住民の普及啓発状況（本人調査）

①在宅医療の認知度

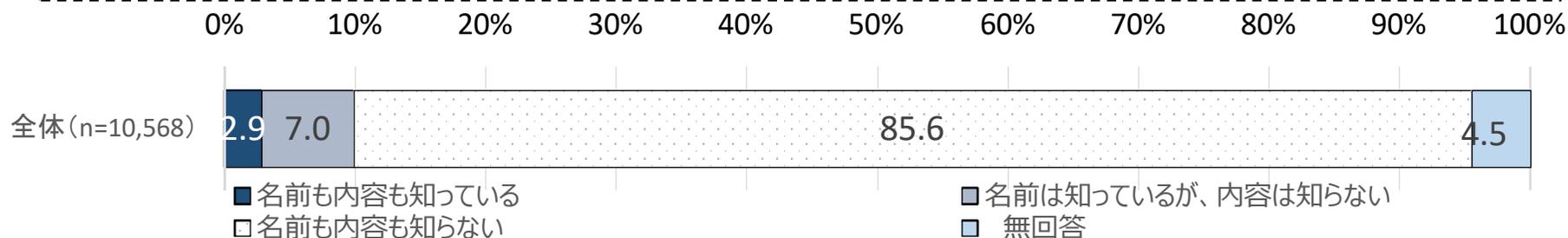
あなたは、希望すれば在宅医療を受けられることを知っていますか。（○はひとつ）



- ・希望すれば在宅医療を受けられることを知らない人は約47%で、知っている人の約44%より、高くなっている。
- ・女性では男性より知っている人が多く、約半数が知っている。

②人生会議（ACP）の認知度

あなたは、『人生会議（ACP）』について知っていますか。（○はひとつ）



- ・ACPを名前だけでも知っている人は、1割程度と低い。
- ・女性では男性より、ひとり暮らし世帯では高齢者世帯全体より、知っている人の割合が高い。 5

D 住民の在宅医療・介護看取りの希望割合（本人調査）

① 人生の最終段階に過ごしたい場所

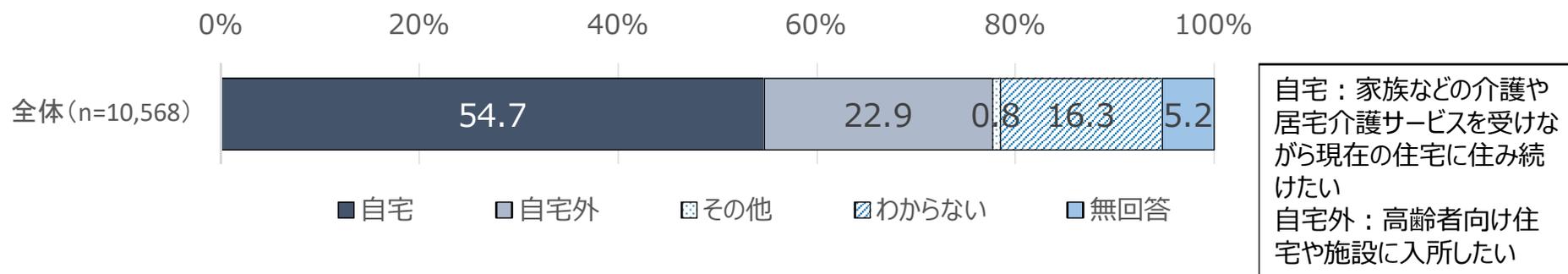
万一、あなたが治る見込みのない病気になった場合、人生の最終段階をどこで過ごしたいですか。



- ・人生の最終段階を過ごしたい場所は、自宅が42%、医療機関が24%となっている。
- ・男性は女性より自宅で過ごしたい人の割合が高い。
- ・ひとり暮らし世帯では、高齢者世帯全体より、自宅で過ごしたい割合は低い。

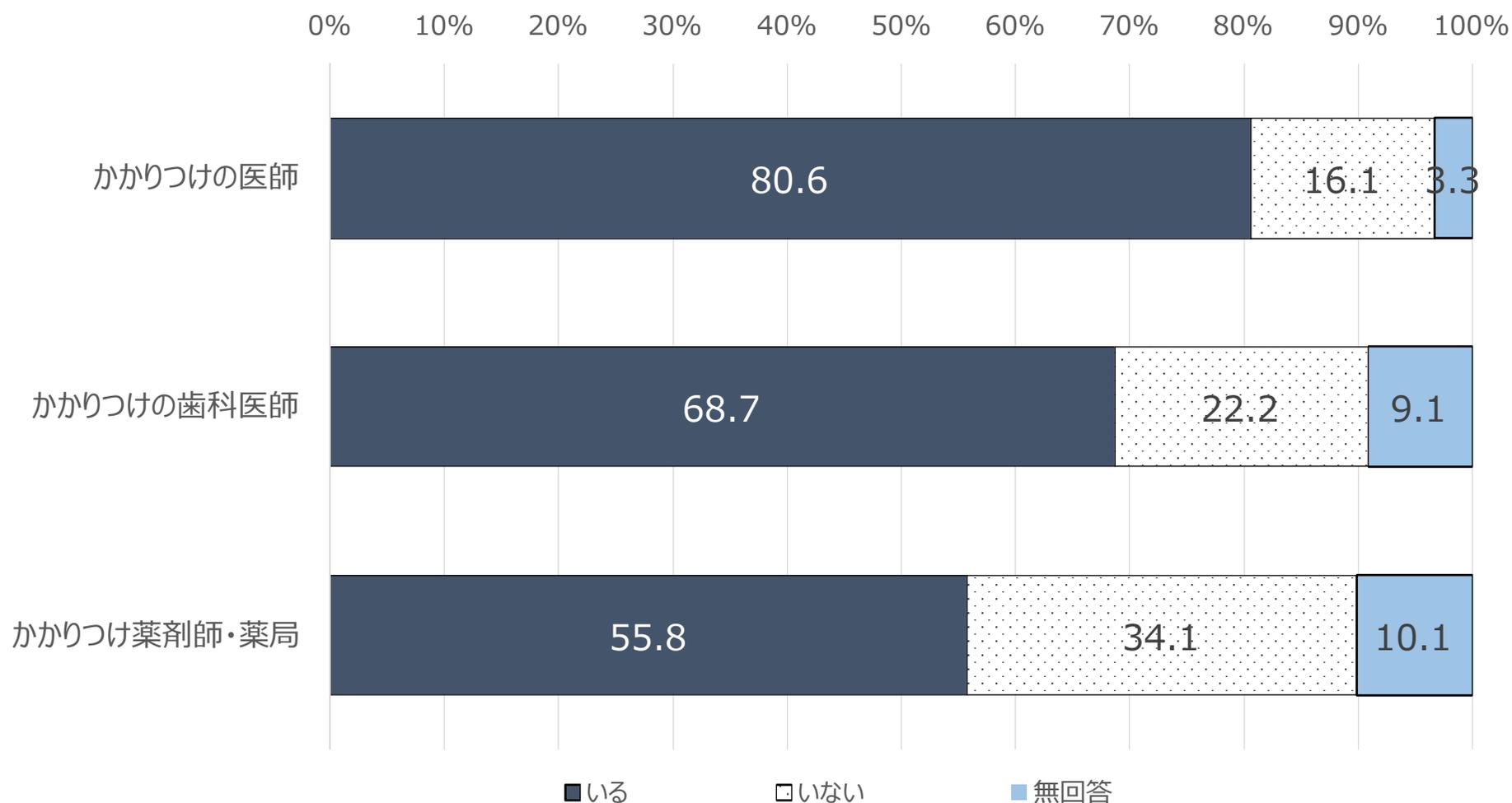
② 介護が必要になった場合の暮らし方

あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思いますか。



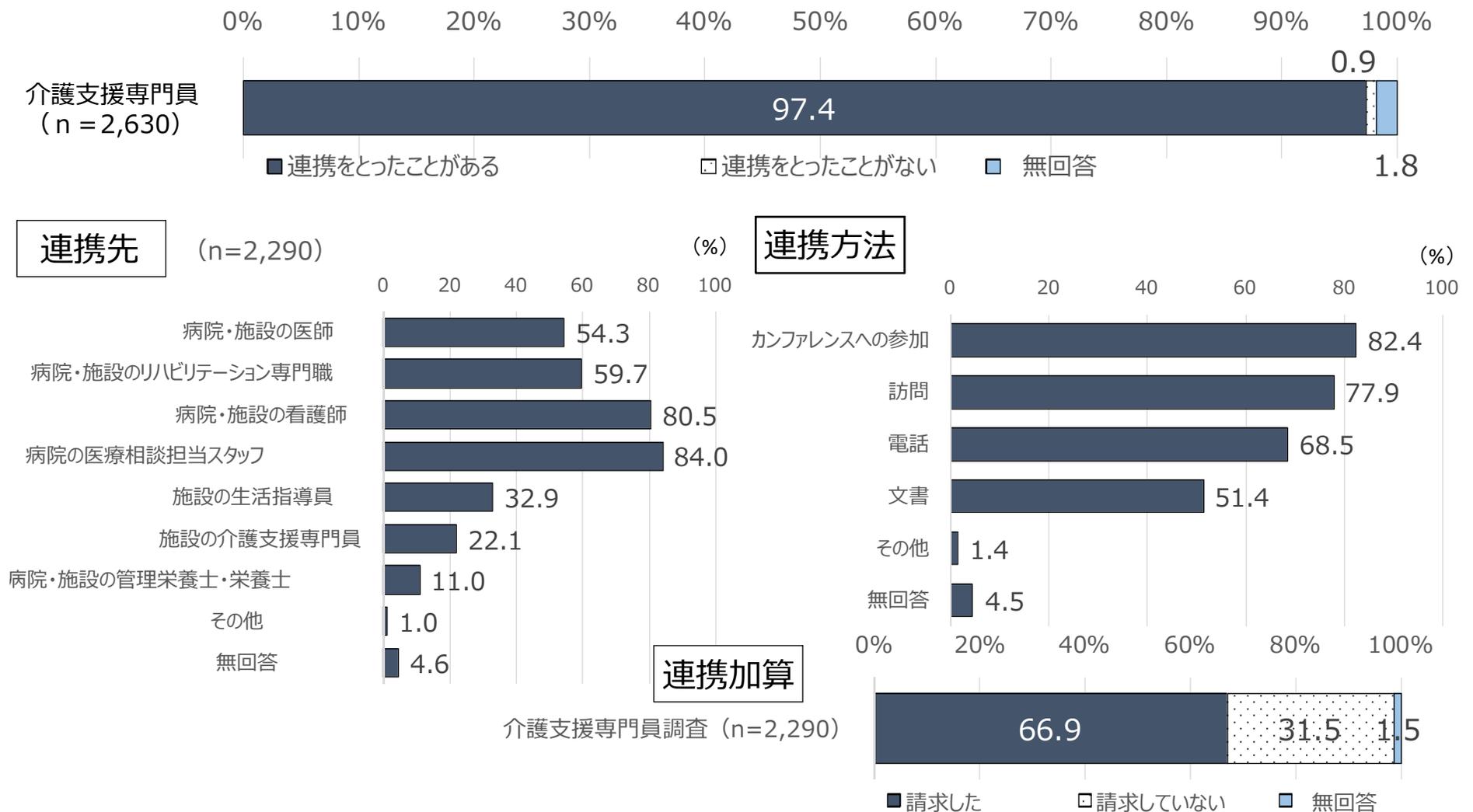
- ・介護が必要となっても自宅で過ごしたい割合は、約55%となっている。
- ・ひとり暮らし世帯では、高齢者世帯全体より、自宅で過ごしたい割合は低い。

【参考：かかりつけ医師等の有無】



- ・約8割がかかりつけの医師がいるが、そのうち、3割弱が訪問診療をしてくれると思っている。
- ・7割弱がかかりつけ歯科医師がいるが、そのうち、訪問歯科診療をしてくれると思っているのは1割にも満たない。
- ・55%程度がかかりつけ薬剤師・薬局がいるが、そのうち、2割程度が訪問をしてくれると思っている。

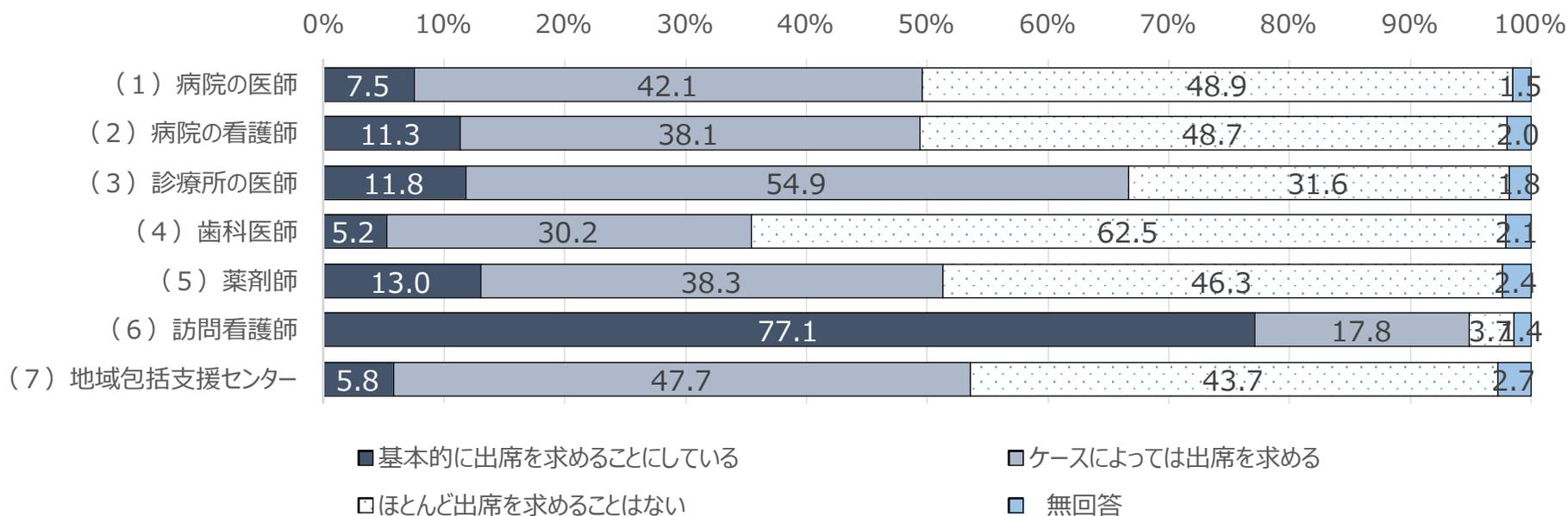
E 入退院時の連携（介護支援員調査）



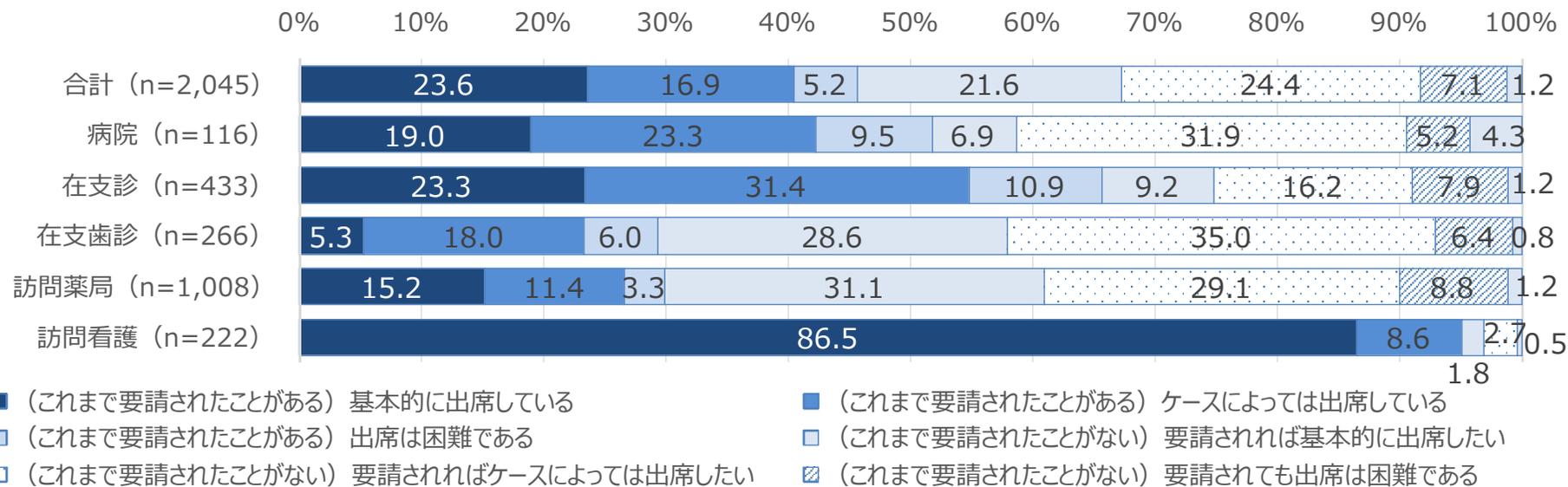
- ・介護支援専門員の大半は入退院時に連携をとったことがある。
- ・連携先としては病院の医療相談担当スタッフ、看護師が8割以上と高い。
- ・連携方法としては、カンファレンスへの参加が8割以上となっており、次いで、訪問、電話となっている。

サービス担当者会議

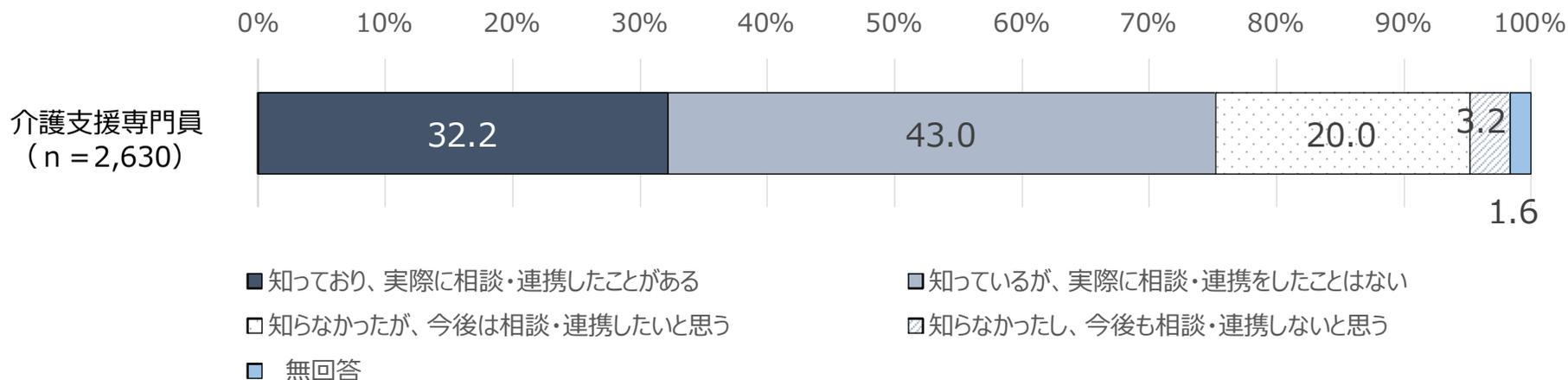
サービス担当者会議への出席要請の有無



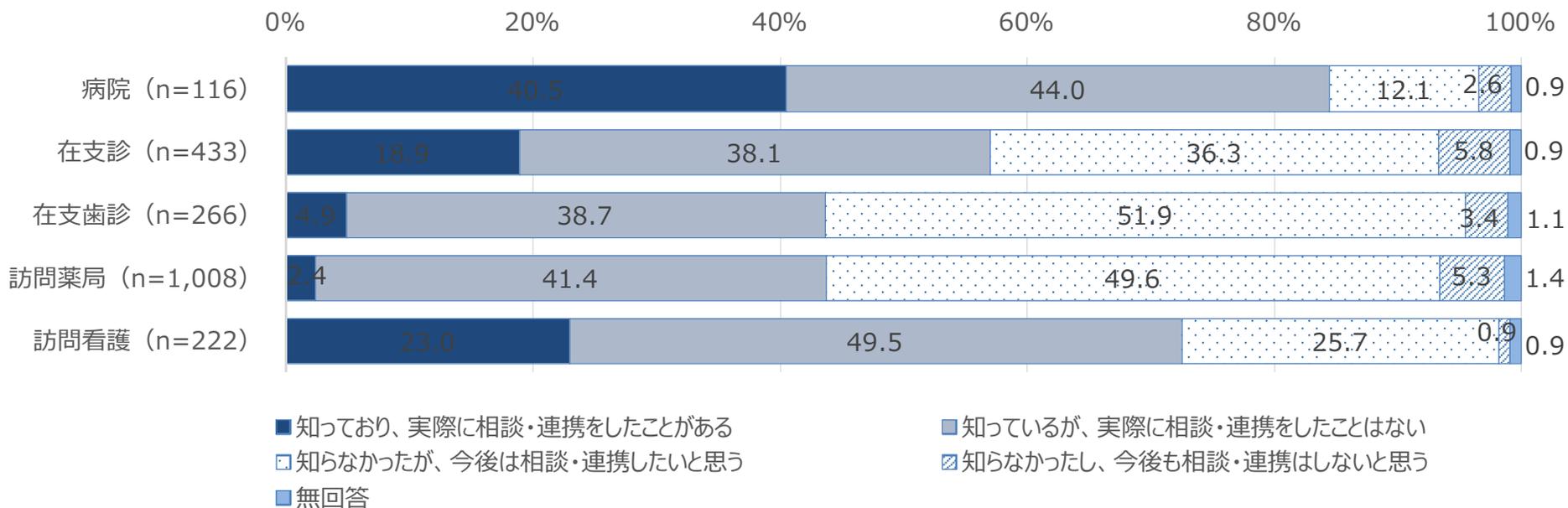
【参考：医療施設調査】



・サービス担当者会議への出席要請は、訪問看護師が最も高く、歯科医師が低くなっている。



【参考：医療施設調査】

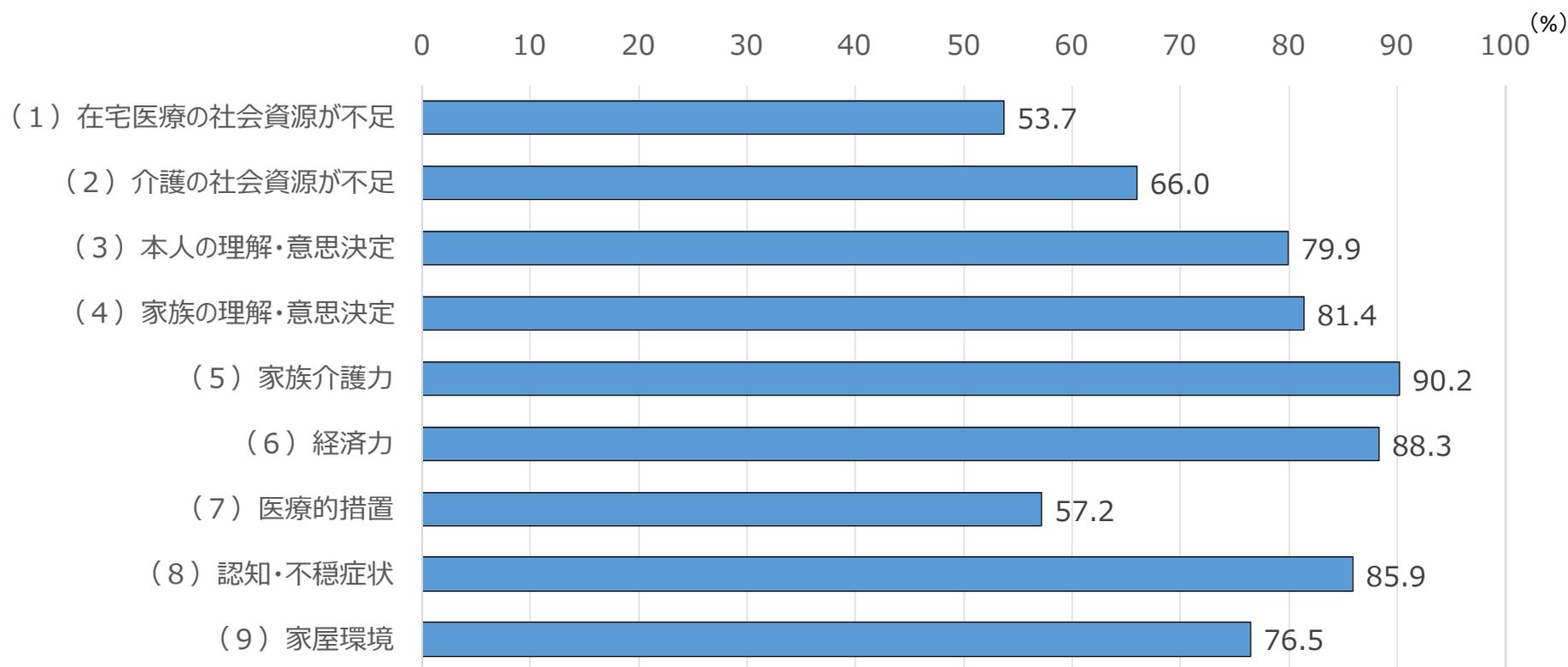


・介護支援専門員の75%程度が相談支援室を知っている。

F 情報共有の過不足等の質の調査（介護支援員調査）

自宅での生活を継続するのに苦慮する課題

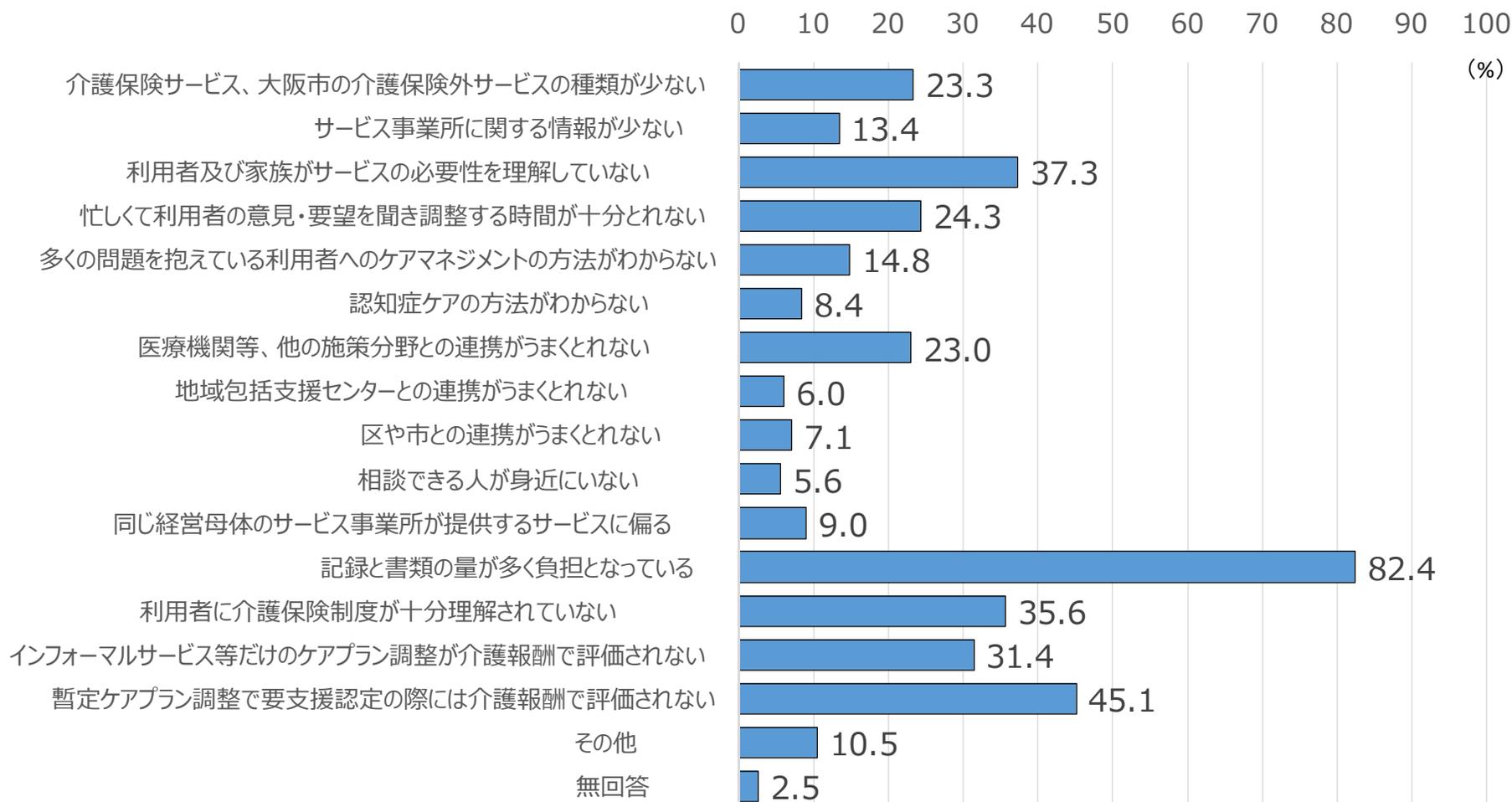
①在宅医療が必要な利用者に対するケアマネジメントをする中で、自宅での生活を継続するのに苦慮する課題についておうかがいします。



- ・自宅での生活を継続するのに苦慮する課題は、「家族介護力」が9割と高く、次いで、「経済力」、「認知・不穏症状」の順となっている。
- ・「本人、家族の理解・意思決定」はいずれも8割程度となっている。

業務を行ううえでの課題

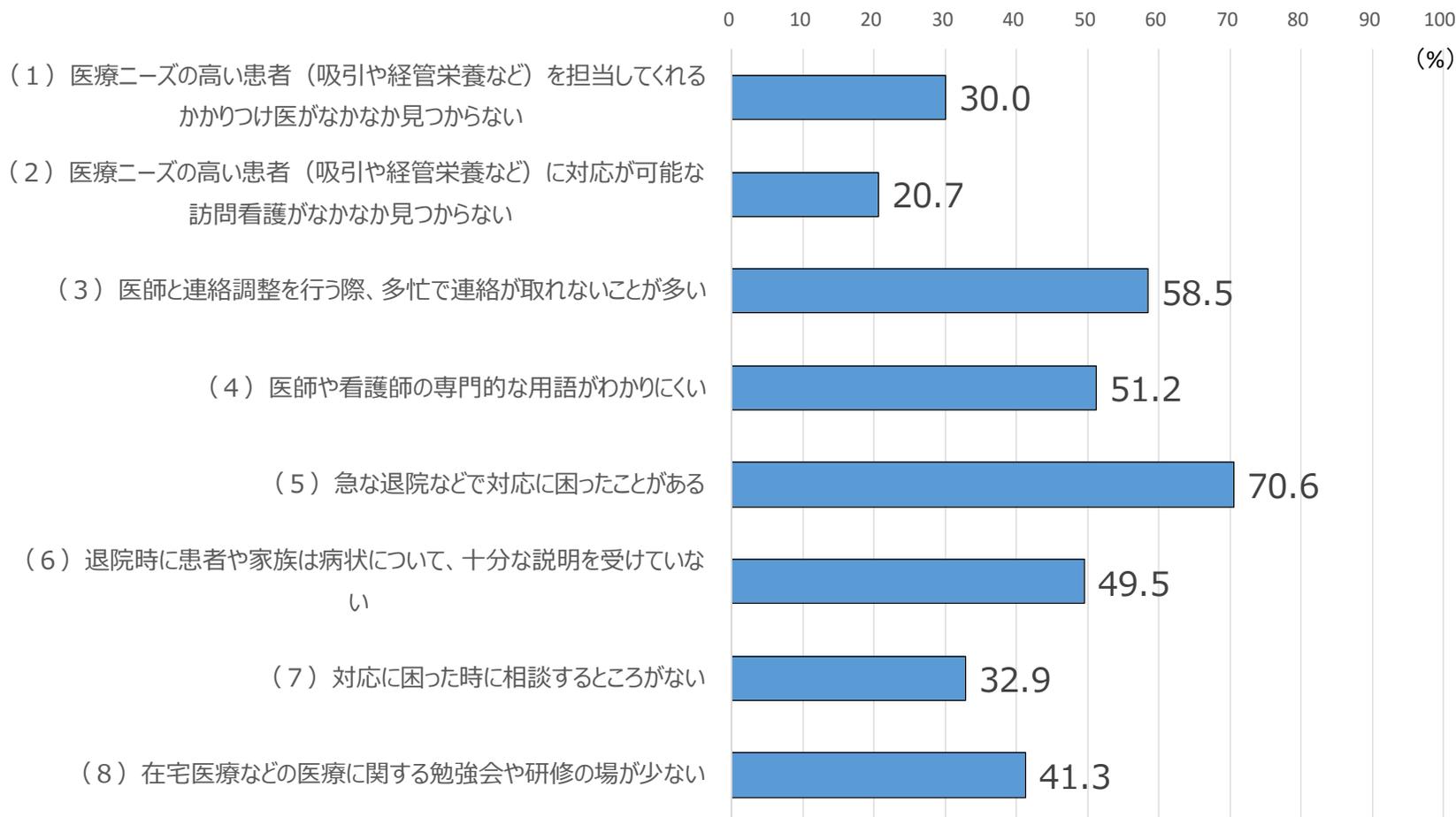
②介護支援専門員業務を行ううえで、課題として考えているのはどのようなことですか。
(○はいくつでも)



・介護支援専門員が業務を行ううえで課題と考えているのは、「記録と書類の量が多く負担となっている」であり、8割強となっている。

在宅で医療的な処置を必要とする支援で困っていること

③在宅で医療的な処置を必要とする方の支援を行ううえで、困っていることについて
おうかがいします。（○はそれぞれひとつ）



・介護支援専門員が在宅で医療的な処置を必要とする支援で困っていることは、「急な退院などで対応に困ったことがある」、「医師との連絡調整を行う際、多忙で連絡が取れないことが多い」、「医師や看護師の専門的な用語がわかりにくい」の順となっている。

在宅医療・介護連携の推進に必要なこと

【参考：医療施設調査】

一番割合の高い項目を太字
30%以上を占める項目に網掛け

	介護支援 専門員	病院	在支診	在支歯診	薬局	訪問看護
1. 連携で困ったときに相談できる 窓口	1,436 (54.6)	41 (35.3)	168 (38.8)	98 (36.8)	418 (41.5)	89 (40.1)
2. 患者・家族の在宅療養に関する 普及・啓発	544 (20.7)	34 (29.3)	132 (30.5)	111 (41.7)	400 (39.7)	87 (39.2)
3. 現状・課題、対応策を検討・共 有する協議の場	969 (36.8)	51 (44.0)	111 (25.6)	59 (22.2)	365 (36.2)	110 (49.5)
4. 関係機関のリスト・連絡先等の 提供	902 (34.3)	44 (37.9)	136 (31.4)	82 (30.8)	348 (34.5)	44 (19.8)
5. 各施設・職種の役割について 理解を深める機会	382 (14.5)	30 (25.9)	66 (15.2)	52 (19.5)	275 (27.3)	65 (29.3)
6. 診療報酬・介護報酬の評価 (増額)	272 (10.3)	24 (20.7)	141 (32.6)	62 (23.3)	167 (16.6)	54 (24.3)
7. 情報共有ツール（シート等） の統一	910 (34.6)	27 (23.3)	60 (13.9)	48 (18.0)	252 (25.0)	48 (21.6)
8. 医療側のための介護知識の習 得・向上の機会	780 (29.7)	20 (17.2)	54 (12.5)	54 (20.3)	182 (18.1)	24 (10.8)
9. 在宅医療にかかる負担の軽減(主 治医・副主治医の導入など)	247 (9.4)	10 (8.6)	133 (30.7)	25 (9.4)	109 (10.8)	34 (15.3)
10. 介護側のための医療知識の習 得・向上の機会	932 (35.4)	21 (18.1)	68 (15.7)	63 (23.7)	67 (6.6)	48 (21.6)
11. 在宅医療にかかる施設基準の 緩和	108 (4.1)	13 (11.2)	78 (18.0)	49 (18.4)	89 (8.8)	14 (6.3)
12. その他	72 (2.7)	1 (0.9)	11 (2.5)	12 (4.5)	24 (2.4)	4 (1.8)
13. 特になし	24 (0.9)	1 (0.9)	10 (2.3)	4 (1.5)	30 (3.0)	1 (0.5)
14. 無回答	94 (3.6)	2 (1.7)	1 (0.2)	3 (1.1)	15 (1.5)	2 (0.9)
回答施設数	2,630	116	433	266	1,008	222